二〇一三年五月三一日

四月馬鹿女性専用車と知らず　満天
巌の上に建つ鐘楼に風涼し　わかば
ゴッホの黄うち広がりし麦の秋　さつき

二〇一三年五月三〇日

徐行して進む電車や峪若葉　うつぎ
数珠なして畦ゆく子らや青田風　有香

二〇一三年五月二九日

代田いま谷戸の里山映しけり　さつき
簀覆ひのよき陰落とす卓冷し　雅流

二〇一三年五月二八日

高欄を吹きぬけてゆく青葉風　有香
毀たれて我家あとなしさみだるる　はく子
雨晴れて来たりと叫ぶ時鳥　さつき
竹の皮脱ぎ散らかりし茶庭かな　なつき
薫風やサイクリングの湖畔道　百合

二〇一三年五月二七日

禅寺の深き庇や蟻地獄　さつき
水神の水の漲る植田かな　三刀

二〇一三年五月二六日

堂縁に足投げ出して春惜しむ　さつき
竹秋の奈落の小径道祖神　よし子
猫眠りゐる下闇の忠魂碑　ぽんこ
庵訪へば山頭火像木下闇　さつき

二〇一三年五月二五日

川涼しポンポン船の音もまた　はく子
夕薄暑街に祈りの鐘ひびく　さつき
谷戸ここに明智の寺や著莪畳　うつぎ
堵列する羅漢に谿の風涼し　三刀
大仰に楝の花の風に揺れ　ぽんこ

毎日句会みのる選・二〇一三年六月二日